

道教大附属函館中の人権教育

函館地方事務局が人権教室

性の多様性テーマに

違いを尊重し合う社会へ



【函館発】道教育大学附属「長」は22日、同校で函館地方事務局が主催の人権教室を開いた。3年生101人が「性の多様性」をテーマとした講話を受講し、写真Ⅱ。性的少数者への理解を深めるとともに、違いを尊重し合う社会の在り方を考えた。

高校進学などつぎの発達段階へ進む3年生を対象に実施。情報モラルなど時代のニーズに応じた教材を企画している法務局の人権教室では今回、同校の希望に応じて性の多様性と人権をテーマに教材を提供した。函館市内の中学校で性的マイノリティーを取り上げるのは初の試み。

教室では函館人権擁護委員連合会の林敏雄事務局長と藤井良江委員が講師を務め、差別やいじめにつながる約20の人権課題を列挙。その一つとして性的マイノリティーを挙げた。心の性と体の性が異なる当事者の気持ちを知らしてもらおうと、性自認に悩みを抱える

る中学2年生を主人公としたDVDを上映し、性の多様性の基礎として、性的アイデンティティーを示す呼称「LGBTQ」について説明した。

林事務局長はバスポーティングをはじめとする日本の戸籍に関する性別が男女の2択のみしか選択できない事実を解説した上で、性の多様性に向けた基盤がまだ確立されていない現状を指摘。令和2年度の性的マイノリティーに関する意識調査から「男性が女性か分からないような人をみると不快になる」と回答した人の割合が年代別で1〜4期に上るデータを示した。

性の多様性を前提とした環境調整や当事者の人権を尊重する必要性を強調し

「性的マイノリティーの存在を認知するとともに、誤解や間違った知識に基づく助言など二次加害防止の徹底が社会に求められる」と、ティーンに対する誤った情報

が流れる中、きょうの学びを胸に刻み、より良い社会をつくる一員となれるよう努めていきたい」と振り返った。

附属函館中が学校表彰

全国中学生人権作文コン函館大会

道教育大学附属函館中学校（中村吉秀校長）は本年度、第42回全国中学生人権作文コンテスト函館地方大会の学校表彰に輝いた。14日、函館地方事務局の竹村啓人局長が同校を訪れ、中学校長に表彰状とトロフィーを贈呈し、中学生の人権意識の高揚に尽力した取組をたたえた。

コンテストは、人権尊重の重要性や必要性を理解を深め、豊かな人権感覚を身に付けることを目的に、全国人権擁護委員連合会と法務省の主催で実施しているもの。

函館地方大会では本年度、渡島・樺山管内23校の中学校から1007編の作品が寄せられた。

同校は国語科のSDGsの単元や社会科、道徳科など各教科における横断的な学習に加え、人権に係る講話の実施など年間を通じた人権学習を計画的に推進。同コンテストに毎年一定数の作品を応募するなど積極的な取組が評価を受けた。

表彰状伝達式では竹村局長が中学校長に表彰状とトロフィーを授与。生徒一人ひとりに対する記念品としてデジタル時計を贈呈し、生徒の積極的な応募に謝意を示すとともに、人権意識の高揚を図る取組の継続を期待した。



度予算案 AMP実施 所を町立化

400万円。うち教育費は4%増の5億6591万円となった。

▽かめ保育園遊戯室LE D化（新規）1140万円
▽第6次町総合計画後期基本計画および第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定（新規）11520万円

保護児童生徒の学習塾に係る経費を支援（月額上限1万5000円）。習い事等に向けた教材費1万円も助成

▽江差北小学校区学童保育540万円
▽学校給食費無償化事業1690万円
▽子ども医療費助成11900万円